科目ナンバリング	G-LAS10 80017 LB42						
授業科目名<英訳>	国際環境政治学 Global Environmental Politics			担当者所属職名・氏名	総合生存学館 教授　　関山　健		
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	人文社会科学系			使用言語	日本語及び英語
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	水3	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

（総合生存学館の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

本講義は、一国の国境を越えて生じる汚染、気候変動、資源問題、生態系破壊、自然災害などの環境問題に関する国際政治を学ぶものである。

国境を越えて影響が広がる環境問題に対処するには、その科学的因果関係を解明するだけでは足りず、その問題に有効に対処する国家間の協力が欠かせない。しかし現実には、そうした国家間協力の枠組み（国際環境レジーム）作りについて、各国が激しく対立することは少なくない。

なぜ国家は、気候変動のような甚大かつ大規模な影響を及ぼしうる問題の対処をめぐってすら、時に対立するのか？どうやったら、有効な国際環境レジームを構築しうるのか？国際環境政治において、国際機関、企業、ＮＧＯ、研究者は、どのような役割を果たしうるのか？

本講義の目的は、国際環境問題に関わる様々な主体間の利害対立について理解を深めるとともに、それを乗り越えて国際環境問題に対処するための方策を自ら考えうる力を養うことである。

なお、本講義は、いわゆる反転授業の形で進める。受講生は、事前に配布する講義ビデオを授業前に視聴することとし、教室では講義ビデオの内容を踏まえたディスカッションを行う。

[到達目標]

・様々な国際環境問題に関わる主体間の利害対立とそれを超克するための方策について理解する。

・国際環境問題の対処に必要な国際協力の実現に向け行動する意欲と素養を高める。

・英語による（１）文献読解、（２）プレゼンテーション、（３）レポート執筆を通じて、国際社会で活躍するためのコミュニケーション力を高める。

[授業計画と内容]

基本的に以下のようなスケジュールで講義を行う。授業中、積極的にディスカッションを取り入れる。なお、講義の進捗等により、スケジュールを変更する場合がある。

1　イントロダクション
2　国際環境政治の特徴
3　国際環境政治の主体①：国家
4　国際環境政治の主体②：国際機関
5　国際環境政治の主体③：NGO・企業
6　国際環境レジームの構築
7　国際約束の国内履行
8　国際環境政治とSDGs
9　国際環境政治と貿易

国際環境政治学(2)へ続く↓↓↓

国際環境政治学(2)

１０　国際環境政治と科学
１１　汚染対策の国際環境レジーム①：オゾン、気候変動
１２　汚染対策の国際環境レジーム②：危険廃棄物、有害化学物質
１３　資源保護の国際環境レジーム①：生物多様性、森林保護
１４　資源保護の国際環境レジーム②：砂漠化、漁業資源
１５　まとめ

[履修要件]

特に定めない。文理いずれの専攻を問わず、広く受講を歓迎する。

[成績評価の方法・観点]

【評価方法】
授業内ディスカッションへの積極的な参加（20点）、プレゼンテーション（30点）、レポート（50点）により、到達目標の達成度を評価する。

【評価基準】
A＋：100点～96点
A　：95点～85点
B　：84点～75点
C　：74点～65点
D　：64点～60点
F　：59点以下

[教科書]

P. S. Chasek & D. L. Dawnie 『Global Environmental Politics 8th Edition』（Routledge）ISBN: 9780367227623

[授業外学修（予習・復習）等]

本講義は、いわゆる反転授業の形で進める。受講生は、事前に配布する講義ビデオを授業前に視聴することとし、教室では講義ビデオの内容を踏まえたディスカッションを行う。

[その他（オフィスアワー等）]

面談を希望する学生は、(1) 名前・所属および(2) 面談希望日時（３つ以上の希望日時を提示されたい）を書いて、電子メールで連絡されたい。

[主要授業科目（学部・学科名）]